

編集後記

この54号では、今年度から新規で開始した、学生と市民のための公開講座「現場からの法律学・政治学」の講演録を掲載しております。現場の第一線で活動しておられる方々のお話をお聞きする機会は、私のような分野を研究している者には余りないことで、とりわけ新鮮でした。「現場」のお仕事でお忙しい中、寸暇を割いてご講演下さり、講座終了の後にまで続いた質疑などにも快く応じて下さった中村進様、小松直人様、上川光治様に、この場をお借りして改めて心より感謝申し上げます。また、それぞれの回についてコーディネートして下さった森川幸一所長、渡邊一弘先生、鈴木潔先生にも厚く御礼申し上げます。来年度は「現場からの法律学・政治学」の第二シリーズを実施する予定です。ご期待下さい。

前号には広渡清吾先生の法学部教授退任記念講演を掲載致しましたが、本号では、広渡先生のご著書『ドイツ法研究』の「自著紹介」を掲載することが出来ました。このご著書には「歴史・現状・比較」という副題が付されております。「歴史」すなわち過去から現在へと至る縦の（通時的な）視点、「現状」すなわち「今」のアクチュアルな視点、そして「比較」すなわち横の（共時的な）視点。この3つの視点の交差がポリフォニーとなって響いてきます。

法学研究所は本年、創立50周年を迎えることになりました。次の50年に向けて、過去を振り返り、現在をみつめ、そして未来への展望を開いて参りたいと存じます。今後とも所員各位のご助力、ご助言をお願い申し上げます。

なお、前頁にも記しましたが、前号の表紙に誤記を残してしまい、大変申し訳ありません。本号からはチェック態勢を強化し、再発防止に努める所存です。

前川 亨（本研究所事務局長）